

さよなら、アドルフ (2012)

LORE

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 オーストラリア／ドイツ／イギリス

色彩 Color

時間 109分

初公開日 2014/01/11

公開情報 キノフィルムズ

映倫 PG12

【キャッチコピー】

少女は生きる。

絶望と葛藤の その先を――

これは“ヒトラーの子供”の《戦後》の物語

【解説】

「15歳のダイアリー」で注目されたオーストラリアの女流監督ケイト・ショートランドが、レイチェル・シーファアのブッカー賞最終候補作『暗闇のなかで』を映画化したヒューマン・ドラマ。敗戦直後のドイツを舞台に、ナチス幹部だった両親を拘束された14歳の少女が、幼い弟妹たちとともに祖母の家を目指して占領下のドイツを縦断する過酷な旅の行方と、その道中で初めて知るナチスの衝撃の真実に打ちのめされながらも力強く向き合い成長していく姿を描く。ヒロイン、ローレ役は本作の演技が高い評価を受けた新星ザスキア・ローゼンダール。

1945年、春。ナチス親衛隊の高官を父に持つ14歳の少女ローレ。ナチス・ドイツの勝利を信じていた彼女は、ヒトラー総統が亡くなったという母の言葉にショックを受け混乱する。やがて両親は連合軍に拘束され、彼女は幼い4人の弟妹たちと取り残されてしまう。そこで、彼らを連れて遙か900キロも離れた祖母の家を目指すことに。ところが、敗戦を境にナチスに対する世の中の風向きは一変し、特権階級の生活を謳歌していたローレたちは行く先々で冷たい仕打ちに直面する。そんな中、偶然出会ったユダヤ人青年トーマスだけがローレに優しく手をさしのべる。それまで当然のように蔑んできたユダヤ人に助けられ、戸惑いを隠せないローレだったが…。

【クレジット】

監督	ケイト・ショートランド	Cate Shortland
製作	カーステン・ストウター	Karsten Stöter
	リズ・ワッツ	Liz Watts
	ポール・ウェルシュ	Paul Welsh
	ベニー・ドレクセル	Benny Drechsel
製作総指揮	マーガレット・マシスン	Margaret Matheson
	ヴィンセント・シーハン	Vincent Sheehan
	アニタ・シーハン	Anita Sheehan
原作	レイチェル・シーファア	Rachel Seiffert
脚本	ケイト・ショートランド	Cate Shortland

『暗闇のなかで』
(アーティスト
ハウスパブリッ
シャーズ刊)

	ロビン・ムカルジー	Robin Mukherjee	
撮影	アダム・アーカポー	Adam Arkapaw	
プロダクションデザイン	シルケ・フィッシャー	Silke Fischer	
衣装デザイン	シュテファニー・ビーカー	Stefanie Bieker	
編集	ヴェロニカ・ジェネット	Veronika Jenet	
音楽	マックス・リヒター	Max Richter	
出演	ザスキア・ローゼンダール	Saskia Rosendahl	ローレ
	カイ・マリーナ	Kai Malina	トーマス
	ネーレ・トゥレプス	Nele Trebs	リーゼル
	ウルシーナ・ラルディ	Ursina Lardi	ローレの母
	ハンス＝ヨヘン・ヴァークナー	Hans-Jochen Wagner	ローレの父
	ミカ・ザイデル	Mika Seidel	
	アンドレ・フリート	André Frid	
	イーファ＝マリア・ハーゲン	Eva-Maria Hagen	